

平成22年度第2回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成22年7月23日(金) 10:00~12:00  
場所 中央図書館 集会室  
出席者 市民懇談会委員

委員長	副委員長				
小塚	荻島	岩田	岡本	桐生	佐藤
清水	田中	鳥澤	森本	横田	我彦

事務局

【協働推進課】山岸課長、吉岡副課長、吉野  
【生涯学習課】永瀬課長、佐藤、高見

1. 開会あいさつ 小塚委員長

2. 議題 議事進行 小塚委員長

(1) 報告事項

地域懇談会について

- ・資料に基づき、参加者数等について事務局より報告を行った。
- その他
- ・第5次基本構想素案の現状について、資料に基づき、事務局より報告を行った。

委員) 基本構想素案を見た感想として、全体的に1つの段落が長い。最後まで読まないとなんか書いてあるのかわからないので、もっと文章を短くしたほうがよいと感じた。

委員長) 議会の一般質疑の中では、総合支所化について6月に検討委員会を設けて年度内に結果を出すと答弁していたが、1つの建物の中に出張所や公民館のあるところもあればないところもある。総合支所化については、どういう姿を一般的に描けばいいのか。

事務局) 検討が始まったところなのでイメージを申し上げることは難しいが、一般的には市の合併に伴い市役所が遠くなってしまいう住民に配慮し、旧市役所を総合支所というミニ版の市役所とするものである。市長がマニフェストで掲げた総合支所については、これとは違って市内の出張所は税金の納付等のごく一部の窓口業務し

が行っていないので、一定の地域に一種の権限を持たせ、予算を取って施策の推進を行う権限を持たせるようなもので、地域自治の拠点機能をもつ支所を設置できないかというものである。そのためには、ある程度のエリアを決定しなければいけないし、来年度に実施される組織機構の改正に併せて行うためには今年度中の検討が必要であることから検討委員会を設けたものである。ただし、具体的なスパンもエリアもまだ決まっておらず、内容は未定である。

委員長)生涯学習に関わりがあれば大事なことと思い確認させていただいた。

事務局)関わりは大いにあると考える。また、公民館運営審議会でも答申を出されているが、地域単位でまちづくりを行う拠点として公民館等を設置しようというものなので、かなり重なる点もあると考える。ただし、支所は公民館に加えて出張所等の機能を持った複合的なものをイメージしている。

委員長)出張所の職員がコミュニティセンターの職員を兼ねているところもあるが、そうすると生涯学習の方向性の具体的な面で変更が生じる可能性がある。ただし、現段階では、これ以上の議論は難しいので、またの機会としたい。

委員)イメージ図のような視覚化したものを付けるとよい。子どもをまちづくりの核として位置付け、ハード面ではなくソフト面を重視するとの話であるが、素案からは伝わってこず、それぞれの章が分断的に見えてしまう。これでは読者は関心のあるところしか読まないのでは伝わりづらい。子どもは未来を担う次世代であるという点が重要であり、それぞれの項目につながるというものを一番伝わりやすくするのは文章ではなく、イメージ図である。最近の計画では冒頭にイメージ図を掲げている例が多く、個人の経験としても児童館の研究会で伝える際に一番伝わったのはイメージ図(1ページ程度)であった。

委員)富士見市民憲章は基本構想の会議の中で出てきているのか。念頭において会議が進められていけばよいが。

事務局)一部の会議にしか出席していないので、全体の中で議論されているのかはわからない。

委員)個人的には、理念として含まれていると思う。憲章はあくまでも理念と目標であり、その上に自治基本条例があると位置付けられているので、富士見市の中の憲法にあたる自治条例の中に全てが

含まれていると判断している。

委員) 基本構想素案の第3節の基本目標1について、子どもの教育がいったいどうなっているのか、学力の問題と道徳的な部分があるが、特に言葉遣いには非常に不安感を持っている。また、基本目標3では、論理的に紹介はしているが、基本的にどういう構想があったうえでこういう表現になっているのか知りたい。具体的にいうと、基本目標4の中でいう消費者に親しまれる商店街づくりはどのような方向性を持ってこういう表現にしたのか、都市近郊農業の育成はどのような構想を持っているのか、そういうものがあるとわかりやすい。以前は出前講座や人材バンクという表現が具体的に出ていたのでわかりやすかったが、文章が生まれてくる背景が見えてくるともっと理解しやすいと考える。

事務局) 検討している分野が違う部会なのでお答えすることは難しいが、構想の中に今まで行ってきた計画やビジョンはあると考える。富士見市には大きな産業がないので、昭和の時代から平成当初までは農業振興をクローズアップしていたが、農政関連の方針は度々変更されるので、後継者の育成も困難な状態であった。ただし、現在は地産地消等の取り組みも進められているし、土地の活性化を図るため南畑まちづくり協議会も設置されている。また、商店街も同様である。お客のニーズも変わっていく中で、駅を中心とした中心市街地をつくらなければいけないという商店街の構想の中で、中心市街地活性化基本計画により駅前商店街の活性化をどう図るのかというビジョンはつくられており、よさこい祭り、東西のみずほ台祭り等が実際に行われてもいる。

・ 所沢市の推進体制本部について、資料に基づき、事務局より報告を行った。

委員) 所沢市生涯学習センターはすごく大きな組織の中にあるが、市民は参加しているのか。

事務局) 「生涯学習をすすめる所沢市民会議」という自主的な組織はあり、第2次・第3次計画を策定する際には提言を策定している。また、広報紙の発行や生涯学習フェスティバルの実施も行っている。

委員) 一度訪問したことがあるが、それほど活気のあるところではなかったイメージがある。市民がもっと頻繁に出入りするような活性化しているところだとよいが、いずれにしても富士見市で同様な取り組みを行うことは無理だと思われるので、富士見市なりのや

り方があると考える。

委員長) 行政主体による推進本部を設置・機能させたいかがかというものであるが、所沢市の調査結果は結果として、協議事項の中で議論をお願いしたい。

・公民館運営審議会の答申について、岡本委員より報告を行った。  
昨年10月に4つの公民館長から諮問が行われ、9回の起草委員会と4回の全体会、所沢市や相模原市等に出向いての調査、利用者からのアンケート、施設職員からの聞き取り等を実施し、6月に答申を提出した。以下、資料(答申)に基づき、説明を行った。

委員長) 公運審の会議に市長部局からも事務局やメンバーといった形で入って、このようなまとめがされているのか。

委員) 公運審として、フリーな市民の立場で行ってきたので、市長部局からの意見は特に伺っていない。ただし、公民館長からは、できない話ではないと聞いている。

事務局) 公運審は公民館長の諮問を受けて審議される組織であり、市長部局の職員は呼ばれば伺うが、そうでなければ出席する会議ではなく、今回の審議で呼ばれたとの話は聞いていない。また、組織の関係では、平成19年に組織改正が行われ、南畑公民館では職員が出張所と併任する方法を取ったが、現在は併任を解いている。そのような議論は再度あるかもしれない。

委員長) 交流センターやコミュニティセンターから見ると、縦割りとの話もあるが、補助金にも関わってくることなので、補助執行については実際に可能なのか議論があるところだと感じる。

委員) 生涯学習に関しても市長部局と教育委員会で現実的には一緒に行っているし、基本構想に関しても市全体で一緒にやらざるを得ないような状況である。地域にある現代的な課題については、交流センター等では本来は目をつぶっても構わないものであり、つまり生涯学習というのは個人の責任において自分の人生を豊かにするものであり、端的にいえば建物のみを用意するというところであるが、そこだけでは割り切れないものが実際にはある。市内の公民館は建設から30年以上経過しており、新しい建物を建設しなければならぬような状態であるが、新しく建てる国からの補助金は全くでない。そうすると、補助金の出ている交流センター等の建設になる。そういう問題は必ず生じるので、それでいいのか検討が必要である。

## (2) 協議事項

次期生涯学習推進基本計画の策定にむけて

～地域懇談会の意見を踏まえて～

資料に基づき、事務局より説明を行った。

委員長) 公民館等の原則有料化については、時間貸しも含めて是正が必要との市民からの意見が地域懇談会等でも多々出ているので、市としても検討する必要があると感じる。

事務局) 市として見直しの議論はしていないが、提言書の中に要望として含めていただいてもよい。個人的には、市としても検証してもよい時期だと考えている。また、時間貸しについては有料化当初より検討課題として出ていたが、現在の3区分の変更については、値上げ等も関係してくるので、調整が難しく先送りされて現在に至っている。

委員) 資料6の中のライフステージに応じた学習機会の提供に関して、それぞれのライフステージに応じた学習課題があるが、それに応じた学習機会の提供の構成になっているのか。子育て期、成人期、高齢期等に分けており、それぞれ学習課題が異なると思うので、それぞれに応じた課題になっているのか確認しておきたい。

事務局) 作業部会で課題等を検討し、その結果に基づき市民懇談会でも協議をいただいたが、それぞれの世代についての学習のあり方については計画の中でふれていきたいと考えている。また、市民懇談会の中で出てきた世代間交流も踏まえて計画の中には盛り込んでいきたいと考えている。

委員) 各ライフステージに応じた学習課題の柱は確立しているのか。

事務局) 資料6の3～4頁にかけて記載してある課題を盛り込んでいきたいと考えている。

事務局) 市民懇談会では、年代を区切らず全体的に意見を出していただいているため、具体的に「の学び」というような文言等は決定していないが、その前に作業部会の中でおよそのガイドは作らせていただいている。それと市民懇談会の意見をミックスした形で起草委員会の中で柱立てに関しては整理していただきたいと考えている。ただし、先ほど基本構想の関係で子育て期が重視されているとの話をしたが、その辺りは新しく加わった話なので、意識して強調することが可能であれば一層充実したものになると考える。

委員) 確認したいことは、一つ一つの学習課題があって解決するために

どういう施策を行うのか聞きたいのではなく、そういう論理構成になっているのかということを確認したい。

事務局) 論理的には外していないと考える。先日の議論の中で世代間交流を入れたほうがよいとの話があったので追加もしており、十分考慮されている。基本構想の中でも子育て期から高齢期という表現を使っているので整合性は取れていると思われる。

委員) 資料1の地域懇談会に関して、まず1点目として、生涯学習は自分なりのテーマを持って生きていく、人生を輝かせる一つの方策であると考えている。市民一人ひとりがそういう考え方を持つことが大切ではないかと考える。もっと生涯学習がいかに大切なのか、行政として市民として考えなければいけないということをもう少し知らしめたほうがよい。

2点目として、高齢者に時間の余裕があるのはわかるが、若い人の参加者が0人というのは寂しい気がする。

3点目として、地域懇談会の感想の中で、少しわかった等の回答を得ているが、何がわかったのか知りたい。この辺りに生涯学習に関する意識の定着の問題があるかと考える。

委員) 提示の仕方が難しいのとチラシ等のPRの仕方が上手くいかなかったのではないかと。地域懇談会に実際に参加した印象では、かなり社会教育に関わっている方が参加しており、そもそもの考え方や価値観だけでなく、違いを吐露する場としての感じを受けた。施設職員と利用者の中で関係ができていたか、何よりの核だと考える。

委員) 公民館には公運審と利用者懇談会があり、利用者から声を聞く場があるのに対し、交流センターやコミュニティセンターにはその様な組織がない。ただし、鶴瀬西交流センターには、ここで友の会ができ、利用者、町会、商店会の入った定期的な開かれた会を開催して様々な声を反映させている。

委員) いろんな人がざっくばらんに話せて厄介なことも含めてお互い様で大切だと思えるような空間を色々なところに持つべきだと思う。公民館もしかり、その他の施設もしかり、そういう機能を新しくつくれるか、若い人の感覚にも合うものをつくれるか、つくれるコーディネーターのような人材をどう確保できるか、生涯学習の意識については長いスパンの計画だと考える。そういう場とコーディネーターという人材のセットでつくっていくものだと思うので、そういうものが見える計画づくりを行っていききたい。

委員) 今までの団体は高齢者が中心の組織であったが、NPO の場合は年齢に関係なく自分の意識次第でできるので、新しい居場所づくりの考え方である。生涯学習の中にも積極的に入れていただきたい。また、世代を跨いだ交流にもつながる。

委員) NPO のような目的を関心として集まっているようなものは大きな核だと思うが、ともすれば色々な自治体を見ていると、地域をあっさり飛び越えてしまうことがあり、地域の中で浮いてしまうことも多々ある。興味深い NPO は大体共通して、地域組織とつながりを持っている。町会を押さえながら目的を共存させていくというように、したたかである。これらは市民の新たな形の専門性であると考え。コーディネート機能も含めて市民が受け持つ時代が来てもしかるべきであるが、現在の移行段階では、一定の場とコーディネートする人材というものは必要である。

委員長) NPO について市民の声を聞くと、意見が二つに分かれる。大変結構だと思っている人もいれば必ずしもそうでないという人もいる。また、公民館等にはそれぞれ 100 団体近い登録団体があるが、地域懇談会のチラシを配るような地道な活動を行わないと生涯学習は個人から始まるといってもそうはならない。具体的に前進させるとすれば、そういう団体が自発的に連携するような市民組織を少人数でもつくって話し合っていく、そういうことを行わないと行政だけでできるものではないと考える。

また、地域懇談会の中で基本理念と基本目標について、基本理念は簡単に変えるものではないが、10 年たって基本目標が同じということはいかなものかという意見があった。率直に言ってそう感じた。基本構想も変わっているし、今まで議論してきた内容も時代の状況に応じてという話があったので、基本目標は従前どおりとは行かないと思う。起草委員会でたたき台をつくり、市民懇談会の場ではかることでよろしいか。 了承

それと、基本構想にも大きく生涯学習が示され、物よりも心を重視する方向であるし、市役所に生涯学習推進本部のようなものを設置したほうがよいと考える。県内にあまり例がなく、所沢市もこういう状況であるが、これは参考として、富士見市らしく、学習センターという話も出ていたが、そういう今までにない構えをきっちり市民に示すことが大事であり、活動家に対しても激励になると思う。そう考えると、推進本部を設置したほうがよい。提言書として意見を述べて前向きに検討していただくとよいと考え

ているので、ご了承いただきたいと思う。

委員)「こんなことをしてほしいバンク」はどこから提案されたのか、市民からか、行政からか。また、以前からあったのか、それとも今現実的につくってみようとまとまりつつあるものなのか、教えていただきたい。

事務局)人材バンクに関連しているものであるが、実際に検討しているものではなく、こういったものを考えていったらどうかというもの。ご意見があれば提言書に入れていただいてもよろしいかと思う。

・起草委員会について

事務局)起草委員会については、資料7のスケジュールで進めていきたいと考えているので、提言書に盛り込みたい意見等があれば8月6日までに様式や提出方法は様々な方法で構わないので、事務局に提出していただきたい。それらの意見を起草委員会に示して協議していきたいと考えているので、よろしく願いたい。

(3)その他

次回の日程

平成22年9月1日(水)午前10:00~  
中央図書館 集会室で開催

3.閉会あいさつ 荻島副委員長

- 資料
- ・地域懇談会開催状況とアンケートのまとめ
  - ・富士見市第5次基本構想素案
  - ・所沢市の生涯学習推進本部に関する調査について
  - ・公民館運営審議会答申(平成22年6月24日)
  - ・生涯学習地域懇談会意見交換録
  - ・計画協議まとめ
  - ・富士見市生涯学習推進基本計画・起草委員会予定(案)